

大学入学共通テスト【問題作成方針】

- ① センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成
- ② 高等学校教育で身につけた内容から、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題作成
- ③ 「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定

→暗記重視の問題（ここだけ覚えたらいい、とりあえず覚えておけばいい）という形からその場で考えて解決する問題が増える。

【英語・リスニング】

○配点について

センター試験		共通テスト	
リーディング	200点	リーディング	100点
リスニング	50点	リスニング	100点
圧縮合計	200点	合計	200点

Q.リスニングの配点が倍になるので問題数も倍になるのでは？

A.問題数が多少増える可能性はありますが、単純に倍になるわけではありません。

○試験時間

- ・センター試験同様、リーディング80分、リスニング60分

○英語の出題傾向

・発音・アクセント、文法問題の大問がなくなる。

→長文の割合が増える。

Q. 長文が増えて、難易度が上がるのでは？

A. 英検3～2級レベルの文章になるので長文の難易度自体は低くなります。ただし読む量が増える。

・長文の内容がwebサイト、ブログ、雑誌、メモなど日常的なものが増える。

○試験対策について

・発音、アクセント、文法がなくなったので、専用の対策が必要ない。

→英検2級レベルでOK。ただし2次試験、私大には文法・語法が必要となる。

・設問形式を把握する。

→答えが複数ある問題。

→事実が意見かを見極める問題。

・スキミング、スキミング能力を身につける。

→GTEC、TEAP、英検の勉強をする。

○まとめ

・施行段階のため難易度はそこまで高くなることは少ない。

・難易度が高くなる場合、情報処理、推測能力が必要。

・2次試験、私大を見据えた勉強し、直前に共通テスト対策をしていく。

【国語】

○配点について

- ・センター試験同様200点（近代以降の文章＝100点、古文＝50点、漢文＝50点）

○試験時間

- ・センター試験同様80分。厳しい時間配分の中で解くのも変わらない。

○国語の出題傾向

- ・実用的な文章が導入される。

例) 2018年センター試験 第1問

→文章と写真を使った出題。

2020年センター試験 第1問 5問

→対話形式の問題

- ・異なる種類や分野の文章を組み合わせた、複数の題材による問題。

例) 2018年11月 第2回 試行調査 第3問

→韻文。詩とエッセイを読んだの問題。

○試験対策について

- ・センター試験過去問は今まで通り有効。試行調査の問題や、予想問題集も非常に有効的。

→まずはセンター過去問から取り組むのが望ましい。

- ・時間内に解き切る訓練を徹底する。

→各大問の目標時間の設定。慣れてきたら少し短くして解くなど。

- ・言葉調べ、どんな評論文が出てても対応できるように語彙力の養成。

→ニュースや時事用語から広げていくのも有効なのでニュースに目を向ける。

○まとめ

- ・出題方式や配点等はセンター試験と変わらない。

・近年のセンター試験に共通テストに向けた形式の問題がちりばめられているので、センター試験過去問は今まで通り有効的。